

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				利用児童数		回収数	
リールスメディカル吹田山田		令和8(2026)年3月25日				15名		9名	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
		環境・体制整備	1	3	5			0	0
2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8	0	0	1				
3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5	3	0	1				
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	8	0	0	1				
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	0	0	0			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7	1	0	1			
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8	1	0	0			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	0	0	2			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	0	0	0			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	0	0	1			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	1	1	2	4	希望していない	機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧にお伝えするよう努める。	
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9	0	0	0			
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9	0	0	0			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	1	1	3			
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	8	1	0	0			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	3	0	1			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9	0	0	0	いつもたくさん相談に乗っていただき大変感謝しています。	日々の支援やモニタリングの機会等を活用し、お子様の個性やニーズの相互共有に努めていく。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	2	3	希望していない	モニタリングの機会等を活用し保護者ニーズの把握に努めつつ、ご家族参加イベントなどきょうだい支援につながるサービス提供に努めていく。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	0	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	0	0	0	LINEなどのSNSツールが日常的に使えようになると良いと思います。	迅速かつ丁寧な連絡・報告に努め、安心してご利用頂ける支援体制を確保していく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6	0	0	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	0	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	0	0	4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	0	1	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	1	1	0	日々、スタッフの皆様には息子の対応いただきありがとうございます。	引き続き、通所を楽しみができる支援の充実に努める。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	・インターネットや他事業所の活動内容の情報を集め、日々当事業所に合わせた内容を検討している	・季節毎のイベントが似たような内容になりがち
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		・児童発達支援の利用者様とも関わり様々な活動を行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	・看護師が体調確認後、リハビリとともに活動を行っている	・毎日ではないが適宜話し合いを行っている
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		・終礼時に意見交換をしている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・毎日職種毎に記録をとり利用者様の様子が把握できるようにしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		・モニタリング後定期的にカンファレンスを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	1	・利用者様の状態にあわせた支援の提供に努めている	・地域交流活動が不十分
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		・利用者様自身が選んで取り組める内容を検討し支援を提供している		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	・管理者と児発管が会議に参加している ・必要時電話で情報共有を行っている	・事業所外の人との関りが薄い
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	・必要時関係機関と連携できるような体制になっている	・必要児童のみにとどまっている
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		・保護者を通じ情報の確認ができています	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2		・問い合わせがあった場合や必要時のみにとどまっている
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	5		・問い合わせがあった場合や必要時のみにとどまっている
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	3	・電話やメール・書面にて連携をとっている	・必要時のみ
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	7	・児童館や地域のイベントには参加している	・感染症防止にも配慮しながら実施していく必要がある
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	7	・参加できる時は管理者のみ参加している	・積極的に参加できていない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・送迎時保護者とコミュニケーションをとり、利用者様の状況把握に努めている	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6		・家族支援プログラムの研修について開催情報等把握していく必要がある	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・契約時説明を行っている		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・送迎時利用者様や保護者の意向を確認できるよう努めている		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		・自宅でしっかり計画書を確認してもらい同意を得ている		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・相談等があった場合は適宜できる範囲でアドバイスを行っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8		・父母会を開催検討する必要がある
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・苦情等あった場合スタッフや上長と情報共有し、可能な範囲で改善を図っている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・毎月HP上にてデイでの様子を発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・基本的に個人情報を持ち歩かない 必要時は保護者とスタッフ間で情報の取り扱いを行っている	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		・周囲の状況に応じて伝達方法を考え対応している	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7		・地域住民を招待するイベントについて検討が必要である
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・マニュアルを作成し定期的に訓練を施行している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・定期的に避難訓練を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・看護師が確認している	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・利用者様のアレルギー一覧を作成しスタッフが把握できるよう取り組んでいる。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・各スタッフが常に安全に配慮し支援提供に努めている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・緊急時の避難場所の伝達を行っている	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・ヒヤリハットが発生した場合当日中に会議を行い、周知徹底し対応策を検討している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・社内外の研修に参加している	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		・現在身体拘束は行っていない		

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメディカル吹田山田		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っている	電話や送迎時当日や最近の様子、できるようになってきたことを伝えている。医療ケアについては保護者と看護師で情報を共有を行っている。	日々送迎や電話等で保護者とコミュニケーションをとり友好的な関係を築き、情報を共有し共通理解をもつ。
2	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されている	毎月社内研修を行っている。事業所内で実践研修も行い、スタッフの受講状況や実績が把握できるようになっている。	資格取得のため研修への参加を促し、スタッフのキャリアアップに繋げていく。
3	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている	適宜スタッフ間でカンファレンスを行い支援内容の確認と見直しを行っている。意見を出しやすいアットホームな雰囲気できやすい環境を整えている。	引き続き活動・リハビリ・医療ケアの内容を各職種間だけでなくスタッフ全員で利用者様の状況を把握できるようカンファレンスを行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別の部屋や場所のスペース確保が難しい	利用状況に応じてスペース作りを行っているが、活動スペースが限られている。	収納場所や収納方法を検討し、スペースを確保する。テントやマットを使用し集中できる空間を作る。
2	活動プログラムが固定化しないよう工夫する	活動内容の固定化しないように努めているも、スタッフの退職などにより新しいプログラムの試行が滞りがちになっている。	新たに入職したスタッフから意見をもらい、今まで行っていない活動を取り入れている。参加できる時には音楽イベントや施設見学へかけている。他事業所やインターネットの情報を収集し新しい活動プログラムを進めていく。
3	放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供できるよう努める	卒業する利用者様がどの障害福祉サービス事業所を利用するか把握できていない。	保護者とコミュニケーションをとり、卒業後の生活について可能な限り情報収集を行う。必要時情報提供を行っていたが、全員ではなく口頭で伝えるのみで不十分な所があった。問い合わせがあった際にすぐに対応できるように事前に資料作成し準備しておく。

公表 保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名 リールスメディカル吹田山田

公表日 令和8(2026)年3月25日

利用児童数

5名

回収数

3名

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1	2	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2	0	0	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	0	1	0	2		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1	1	0	1		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	0	1	0	1	リハビリがある時と無いときがあるので出来るだけある様にして欲しい	丁寧な対応に努め、各対応について改善をはかる。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2	0	0	1		
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1	0	0	1	前向きな姿勢で取り組みを考えてくれる	日々の支援やモニタリングの機会等を活用し、お子様の個性やニーズの相互共有により安全な支援体制確保に努めています。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2	0	0	1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1	0	0	1	療育園でやっていることやリハビリの情報リアルタイムに共有できたらと思う。	引き続き、お子様の個性やニーズの相互共有に努めながら、より良い支援提供に努めていく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	0	0	0	2	事前に遊びや行事の予定が分かれば好きな遊びや苦手なこと、やってみてもらえたら有難いことなど伝えられるのではないかと思います	引き続き、通所を楽しみにできる支援の充実に努める。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	0	0	1	1	健常児とのコミュニケーションが取れば良いなと思っています。	機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧にお伝えするよう努める。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2	0	0	1		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2	0	0	1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	0	0	0	3		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	1	0	0	1	毎回書く連絡メモにテンプレートがあった方が必要な情報をもれなく書けると思っています。体調、食事、お願いしたいことなど。	引き続き、迅速かつ丁寧な連絡・報告に努め、安心してご利用頂ける支援体制を確保していく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	0	1	0	2		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2	0	0	1		
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	0	0	3			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2	0	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2	0	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1	0	0	2	連絡帳だけでは伝えきれない事もあるので一部でも電子化されたらと思う	お子様の個性やニーズの相互共有に努めていく。 管理者を中心に、丁寧な連絡・情報伝達に努めます
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	0	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	0	0	0	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2	0	0	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1	0	0	2		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1	0	0	2		
	29	事業所の支援に満足していますか。	1	1	0	1		

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名 リールスメディカル吹田山田

公表日 2026年3月25日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	・収納の工夫を行い、スペースを確保している ・午前児発・午後放デイと入れ替えられよう時間調整を行っている	・バギー置き場が決まっていない
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・上長へ相談し人員確保できるよう努めている ・人員不足時応援やタイミーで補っている	・支援と運転業務を両方行っているスタッフの負担が大きい
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・本棚やおもちゃ箱等カテゴリーを分けて収納している	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・毎日の清掃に加え、定期的に物品の消毒を行っている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	6	・抱っこで眠る利用者様がいるがカーテンで仕切り、入眠できるようにしている ・テント等を使用し空間を分けている	・ワンフロアのため個別の部屋のスペースがない ・仕切りで空間を作っているが長時間使用できない
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		・毎日終礼を行いスタッフ間で情報を共有している	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1		・スタッフ各自行っているか把握が必要
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・支援している際疑問や不明な所がでてきた場合、都度他スタッフの意見が聞ける場を作っている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	4	・定期的に監査がある ・内部で都度話し合いを行っている	・引き続き把握が必要
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・各自社内外の研修に参加している	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		・定期的にカンファレンスを行い、他職種間で意見交換を行っている	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・未就学児の利用者様は成長が著しいため、適時情報共有を行っている	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・各職種毎に支援を行っている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・重心施設のため重心児用の支援内容に設定している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・複数名で立案し他職種で情報共有を行っている	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	・他事業所の活動内容を知る場を作っている	・毎月にイベントが似たような内容になりがち
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		・好きな活動や未経験の活動は個人のペースで取り組んでいる ・始まりの会や終わりの会を行い放デイの利用者様と関わり、集団活動を行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	・毎回ではないが適宜行っている	・より具体的な支援内容の共有を行っていく必要がある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		・毎日終礼を行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・ご利用時には職種毎に記録を行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		・利用者様や保護者の意見を聞き、必要時内容の見直しを行っている	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・管理者や児発管が参加している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		・特に必要とされる児童にとどまっている
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		・必要時行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	2	・基本的には保護者の方が行っているが、支援学校等から問い合わせがあった場合情報共有を行っている	・問い合わせがあった場合にとどまっている
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	2		・必要時のみにとどまっている
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	7	・児童館のクリスマス会で地域との交流あり ・隣接している保育所の園児と顔を合わせた場合は挨拶や声かけをするよう心掛けている ・今後空き時間に交流を行うか検討中	・感染症防止にも配慮しながら実施していく必要がある
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・送迎時にご利用時の様子を伝え、保護者から自宅での様子を聞きスタッフ間で共有している	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6		・研修について問い合わせがあったら答えられるよう情報を集める必要がある	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・契約時説明を行っている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・支援計画書作成時必ずモニタリングを行っている	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		・毎回計画書を確認してもらい、同意を得ている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・定期的ではないが、保護者から相談された場合は可能な範囲でアドバイスを行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8		・父母会の開催検討が必要
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・相談内容に応じて職種毎の助言を行っている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・ホームページに写真を載せ、日々の様子を保護者へ発信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・個人情報が記載された書類を取り扱う際は保護者とスタッフ間で必ず行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		・情報伝達は対面だけでなく、メールや電話を使用する配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	・送迎時地域住民の方とすれ違う際には挨拶している	・イベントの開催検討が必要
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・マニュアルは自由に閲覧できる場所に置き、定期的実践訓練も行っている	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・定期的に防災散歩を行い、災害発生時迅速に行動できるようにしている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・看護師による内服状況や発作時の様子の確認を行っている	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・契約時にアレルギーの有無を確認し、食事やおやつ提供時にはスタッフ間で配慮している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・危険な場面があった際、当日中にスタッフで情報を共有し改善方法を検討し実行している	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・固定電話だけでなく、緊急時すぐにスマホで保護者と連絡がとれるように対応している	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・ヒヤリハットがあった場合、すぐに会議を行い改善策を検討し次回ご利用時には実行できるよう努めている	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・社内外の研修に参加している		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		・現在身体拘束は行っていない		

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメディカル吹田山田		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている	サービス提供時困り事や不明点があれば終礼時出勤スタッフ間で周知している。その後カンファレンスを行って改善方法を検討している。	多くのスタッフが参加できるようシフト調整しカンファレンスを行えるようにする。よりよい支援ができるよう話し、特定のスタッフだけの意見でなく全員意見がだせるよう環境を整える。
2	利用者様からの相談や申し入れがあった場合、対応の体制を整備し迅速かつ適切に対応している	利用者様からの相談があった場合はスタッフ間で周知し、すぐに対応できる内容であれば当日中に対応している。	相談等があった日欠勤のスタッフへの申し送りを徹底し、事業所として全員が共通理解を持つ。利用者様が相談しやすい雰囲気作りを努める。
3	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている	毎日清掃を行い、定期的におもちゃや本の消毒を行っている。	日々環境整備を行い、利用者様が安心・快適に過ごせるよう物品の見直しを行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別の部屋や場所のスペース確保が難しい	利用状況に応じてスペース作りを行っているが、活動スペースが限られている。	収納場所や収納方法を検討し、スペースを確保する。テントやマットを使用し集中できる空間を作る。
2	活動プログラムが固定化しないよう工夫する	活動内容の固定化しないように努めているも、スタッフの退職などにより新しいプログラムの試行が滞りがちになっている。	新たに入職したスタッフから意見をもらい、今まで行っていない活動を取り入れている。参加できる時には音楽イベントや施設見学へかけている。他事業所やインターネットの情報を収集し新しい活動プログラムを進めていく。
3	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えていく	日々保育・教育機関と利用者様の情報共有を行っているが、他関係機関とはあまり連携できていない状況である。	関係機関と意見交換を行い利用者様の状況を把握できるよう密にコミュニケーションをとるように努める。利用者様についての情報共有システム等を今以上に有効活用し、よりよい支援サービスを提供する。

事業所名

リールスメディカル吹田山田

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2024 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。											
支援方針		多様な活動・体験機会の提供を通じて、現在抱える子どもの困り事や生き辛さを改善し、子ども達が自分らしく生き抜く力を育み支える。											
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	11 (10)	時	30	分から	17 (16)	時	30	分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	看護職員等により来所時の健康チェック、ご利用児童ひとりひとりの医療濃度に応じ看護職員による医療的ケアを実施し、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。個々の心身の状態に合わせ機能訓練担当職員によるリハビリテーションを実施することで、各自が保有する機能の維持・改善と健全な心身の発達を支援。保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、児童本人の生活リズムの形成・安定を図る。											
	運動・感覚	機能訓練担当職員によるリハビリテーションにより、個々の心身の状態に合わせて姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善および習得、関節の拘縮、変形の予防、筋力の維持・強化を図る。児童ひとりひとりの身体の状態に合わせ、活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いす等様々な補助的手段を活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、児童が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。											
	認知・行動	支援スタッフが児童ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえて児童が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。シール貼りなどの創作活動の提供により、児童が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。外出（散歩）活動の提供により、児童が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、過去の情報と照合しつつ環境の状況や変化を把握・理解できるよう支援。											
	言語 コミュニケーション	集団活動等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを伝えられるよう支援。活動中の意図的な声掛け等により、ご利用児童ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。散歩活動中等の声掛けや、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。											
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：風船バレー等）の提供により、他の児童と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。											
家族支援		ご利用児童を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。児童の発達状況を相互に理解し合えるよう定期的に情報交換を実施。						移行支援		学童保育を併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。希望の進路先を見据えた本人・保護者等との相談援助を実施。			
地域支援・地域連携		ご利用児童がスムーズな生活を送れるよう、通学先の学校の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。						職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。			
主な行事等		外出活動（3～5月、10～11月）、夏祭り（8月）、クリスマス会（12月）、お別れ会（3月）、お誕生日会（毎月）											

事業所名

リールスメディカル吹田山田

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2024 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。											
支援方針		成長著しい乳幼児期のお子様ひとりひとりの発達の充実が図られるよう、保護者や地域の支援機関との連携を重視しながら、個々のニーズに合わせ工夫を凝らした多様な活動・体験機会を提供することを通じ、就学に備えられるよう支援する。											
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	11 (10)	時	30	分から	17 (16)	時	30	分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	看護職員等により来所時の健康チェック、お子様ひとりひとりの医療濃度に応じ看護職員による医療的ケアを実施し、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。個々の心身の状態に合わせ機能訓練担当職員によるリハビリテーションを実施することで、各自が保有する機能の維持・改善と健全な心身の発達を支援。保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、お子様ひとりひとりの生活リズムの形成・安定を図る。											
	運動・感覚	機能訓練担当職員によるリハビリテーションにより、個々の心身の状態に合わせて姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善および習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。お子様ひとりひとりの身体の状態に合わせ、活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いす等様々な補助的手段を活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、お子様が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。											
	認知・行動	支援スタッフがお子様ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえてお子様が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。シール貼りなどの創作活動の提供により、お子様が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。外出（散歩）活動の提供により、お子様が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、環境の状況や変化を徐々に把握・理解できるよう支援。											
	言語 コミュニケーション	集団活動等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを徐々に伝えられるよう支援。活動中の意図的な声掛け等により、お子様ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。散歩活動中等の声掛けや、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。											
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：風船バレー等）の提供により、他のお子様と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。お子様ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。											
家族支援		お子様の発達状況を相互に理解し合えるよう、こまめな気づきの共有と情報交換を実施。お子様を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。						移行支援		保育所等併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。希望の進路(就学)先を見据えた保護者等との相談援助を実施。			
地域支援・地域連携		お子様がスムーズな生活を送れるよう、保育所・幼稚園等の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。						職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。			
主な行事等		外出活動（3～5月、10～11月）、夏祭り（8月）、クリスマス会（12月）、お別れ会（3月）、お誕生日会（毎月）											